

年 月 日

厚生労働大臣

殿

東京都中央区日本橋兜町1-1-7 BM 兜町ビル2F
日本の誤薬をゼロにする会

老人ホームなどで服用される薬の分包紙にマーキングされる 服用時間毎の配色ルール統一を求める請願に関する署名簿

(請願の趣旨)

1. 超高齢化に伴い老人ホーム等で急増している誤薬事故を防止するために、その原因となっている施設ごとでルールが異なる各服用時間（朝・昼・夕・寝る前）の配色ルールを統一してください。
2. その各服用時点の配色ルールは識別しやすい配色を採用し、『朝⇒赤』、『昼⇒黄』、『夕⇒緑』、『寝る前⇒黒』で統一してください。

上記の通り、請願の趣旨に賛同し署名いたします。

請願者名

| | 氏名 | 住所 | 印 |
|---|----|----|---|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |

《請願要旨》

老人ホームなどでの薬の管理は、主に薬局にて分包機を利用して一包化という作業を行い、1回のむ（服用）分を分包紙へひと包みの状態にして管理しているのが通例である。そして、その分包紙の服用時点毎（朝・昼・夕・寝る前）に、施設ごとで独自に決められた配色ルールに則り、服用時点毎の色のラインを引き、分包紙に印字された文字だけでなく、色の識別でいつ服用する薬か判別できるようにしている施設がほとんどである。

今回問題視していることは、施設ごと、薬局ごとでその配色ルールがバラバラであるため、様々な理由で転職される介護や看護、薬局に従事するスタッフが混乱し、誤薬事故が頻発している現状である。

これは交通信号が世界共通ルールで、『赤色は進行不可、黄色は停止、緑色は進行許可』と統一されているが、日本の介護現場はこの交通信号の配色ルールが施設ごとでバラバラであるために、交通事故（誤薬事故）が起きている事と同様であると考え。

薬を作る側、管理をする側、実際に服用する側（私たちのおじいちゃん・おばあちゃん）、が日本国内どこでも安心して過ごせるためにも、施設や薬局単位の個別ルールでなく、日本全体として配色ルールの統一化を進める必要があると考える。

更に今後、介護スタッフの人材不足により、東南アジアより外国人労働者が一層参入する時代、日本語にも不慣れなスタッフと一緒に働いていく時代であるからこそ、‘文字’だけでなく‘色’という視覚的な配色ルールを日本国内共通ルールとして作ることが急務である。

色の配色としては、交通信号色でも採用される識別しやすい『赤』、『黄』、『緑』の3色をベースとする。色と時間帯のイメージを合わせた時、『朝⇒赤』、『昼⇒黄』、『夕⇒緑』の配色とし、残り一つの『寝る前』の色はこの3色と識別しやすい色かつ時間帯のカラーイメージを考え、『黒』が適していると考え。

※『青』を使用している施設や薬局もあるが、『緑と青』、『青と黒』は同系色のため、色の判別がしづらいので、『青』は除外することにした。

日本国政府には誤薬事故を防止するために、服用時点毎の配色ルール統一と共に、識別しやすい配色ルール：『朝⇒赤』、『昼⇒黄』、『夕⇒緑』、『寝る前⇒黒』を併せて提案する。

（請願事項）

1. 日本国において高齢化に伴い老人ホーム等で急増している誤薬事故を防止するために、施設ごとでルールが異なる各服用時点（朝・昼・夕・寝る前）の配色ルールを統一してください。
2. その各服用時点の配色ルールは、『朝⇒赤』、『昼⇒黄』、『夕⇒緑』、『寝る前⇒黒』で統一してください。